ワークショップ 詳細

閉じる

医療事故防止に心理学はどのように貢献できるか 11
ヒューマンエラーの責任に関する社会心理学的アプローチ

企画者	北九州市立大学	松尾 太加志
企画者	東京海上日動メディカルサービス(株)	山内 桂子
企画者	福岡女学院大学	藤村 まこと
司会者	東京海上日動メディカルサービス(株)	山内 桂子
話題提供者	立教大学	芳賀 繁
話題提供者	一橋大学	桑山 恵真
話題提供者	早稲田大学	膳場 百合子 #
指定討論者	日本ヒューマンファクター研究所	本江 彰 #
指定討論者	宮城学院女子大学	大橋 智樹

近年、医師が医療事故の刑事責任を問われた事件を契機に、ヒューマンエラーを「犯罪」として扱うことの是非が議論されている。裁かれるという恐れから医療者が防衛的医療を行なったり情報開示を避けたりして、事故が再発防止に生かされず、患者との関係性も損なわれることが危惧されている。

折しも昨年、スウェーデンの産業心理学者が著した『ヒューマンエラーは裁けるか』が翻訳出版され、医療者やパイロットなどの高度専門職のヒューマンエラーに対して刑事責任を問うことの問題提起がなされている。本WSでは、監訳者の芳賀氏による書籍の概要説明と問題提起の後、「後知恵バイアス(桑山氏)」と「日本人の責任判断の特徴(膳場氏)」に関する研究知見を報告いただく。そして、これらの社会心理学的視点を中心に、ヒューマンエラーについて刑事責任を問うことの是非や課題について、エアラインの機長経験者の立場（本江氏）とヒューマンファクター研究の立場（大橋氏）の指定討論者を交えて議論を行う。

閉じる

Copyright © 2010 The Japanese Psycological Association, All rights reserved.